

第一幕

[アドリオの宮殿にて。アドリオ、エラクリオ、カシーロ]

カシーロ

日も昇らぬ内から息せき切って、
二人の息子だけを供に屋敷から
おいでになる。これはどうしたことでしょう？
めでたきにつけ、悪しきにつけ、いかなる理由が
このようにお心を乱すものなのか。 5
何があったのですか？

エラクリオ

途方もないことに違いあるまい。
私達の胸に惧れを抱かせる
嘆きを漏らしながら部屋から部屋へと歩き
お尋ねになるには、「お前達は従順な息子であろうか？
この父のように勇敢だろうか？ 10
私の血を引くものか？生など軽蔑するものか？
苦難の中に勝ち得た名誉を愛するものか？」と。
これらすべてにお答えするならば
私達はあなたの息子です。子たるものの
従順を示したいと思っています。 15
名を重んじ、危険の中で命を落とした
偉大なる男達が手に入れる
不滅なるものの名誉を欲するものです。
唇を震わせて、黙っておしまいになる。そしてただ
嘆息を漏らし、深い苦しみの呻き声を上げられる。 20
泣き腫らしたその目を天に、
私達の腕に、剣に向けられる。
そしてふたたび嘆息を漏らしては私達を抱きしめ、
その右手をこの右手に結ばれる。
これは一体どうしたことでしょう？

アドリオ

老いて衰れな身となり 25

思い上がった敵を持つせいなのだ。
彼奴の力はお前達の熱情を傷付け、
私の弱さを侮辱するもの。

エラクリオ

愛する父上、あなたを侮辱するそれは何ものでしょう？
あなたはチェルケスで最も尊敬を受ける 30
元老院の一員、祖国すべてが愛しむすれば

尊敬もしているお方ではありませんか？
戦場で過ごされた日々、その活躍は
他の国々も記憶に留めているではありませんか。
これ以上何を望まれるというのです？ 35
祖国に敬われ、
異邦からも恐れられるという
そのような幸せを手に入れるなら
高貴なる胸は満足を感じるもの。
その双方を手にして、その喜びは 40
全きものはず。老いて今
これほどの喜びに心愉しまぬというのですか？

アドリオ
息子達よ、天が我が不幸を
和らげてくれるのは唯一の慰めは、
お前達二人があることだ。その勇氣は 45
私から伝わったことを見事に証明した。
若き日の力強さをカシーロ、お前の中に、
今日の冷静を、愛しいエラクリオ、お前の人となり
に見出すのは、息子達よ、
何たる喜びだろうか。

エラクリオ
敬愛する父上、 50
勿体無くもその愛情は私達を
称えてくださるもの。

カシーロ
最後まで仰ってください。
私達の不安を除いてください、父上、
我等息子二人、尊敬するその声の
命ずるところに従う所存です。 55
言葉が発せられるのを待っているのです。
お考えの分からぬ間は、どちらも激しい
愛と疑いの狭間に置かれているのです。

アドリオ
お前達は私の息子か？

エラクリオ
そのことを誇りに思い、
父上のようになりたいたいと思っています。 60

カシーロ

この胸にその血を受け継いでいるという
そのことだけで満足しているのではありません。
いつの日にかアジア全土を燃え立たすであろう
父上のかつての勇気と名誉、
その火花を感じて満足するものです。 65
その名を負いながら父上の美点に倣うのでなければ、
それは名誉ではなく不名誉となりましょう。
どのような戦いをお申し付けになるのか。
息子達はその名に相応しいかどうかご覧ください。
お心を曇らせるものは何なのでしょう？

エラクリオ

私は知っている気がする、 70

少なくとも推し量ることは出来る。

アドリオ

ああ、お前の愛がそれを知ることが出来るなら。
顔を紅潮させずに語ることは出来ぬが許せよ。
だが、生きてままでそれを語りえようか？

カシーロ

知っているなら言ってくれ、この剣で・・・ 75

エラクリオ

はっきりとは分からぬ。状況に鑑みて
推測するばかりだが。

カシーロ

早く言ってくれ。

その口からこぼれるや否や、
この剣が忌まわしき敵の
いかなる侮辱も罰して見せよう。 80
天に誓って言うが・・・

アドリオ

口を嚙め、
名誉を晴らして、より大きな屈辱を得ることになるだろうから。
知るがいい、お前の血、私の血が、
今日この日に流されるだろうことを。
なぜならあれもまた同じ血を持つもの・・・ 85

エラクリオ

ソラーヤのことですか？

アドリオ

ああ、痛ましき娘よ！

カシーロ

何を言っているのか、さっぱり分からん。

エラクリオ

カシーロ、私の理解したところを聞くがいい。

妹はこの家にいない。

他の娘達とともに妹が〔貢納として捧げられる女を選ぶ〕抽選へ足を運んだ 90

あの朝のこと、恋するものの眼差しで

セリンが彼女を見つめていたのだ、

運命が父親の胸からあれを奪い、

自分の元へ与えてくれるように願いながら。

アドリオ

あの子を失ったのだ。

カシーロ

では探しに参りましょう。 95

エラクリオ

探し出してどうするつもりだ？

カシーロ

どうする？殺すのです。

エラクリオ

ならぬ、カシーロ、とどまれ、より良いのは
タタールの奴を殺すことだ。

カシーロ

そうだ、死ぬがいい。

アドリオ

ならぬ、ならぬぞ。ああ、向こう見ずな若者よ。

彼は大使なのだ、そしてその住まう宮殿は 100

聖なる場所。

カシーロ

何を恐れるのです？

法を破るものはその特権をも失うもの。

父上、娘が名誉を汚したのであれば、

息子がその尊厳を取り戻しましょう。

父上を侮辱し、私を怒らせる罪の住まう 105
宮殿は炎に包まれるがよい。
その廢墟にあれら、父上の悲しみと
私の復讐をもたらした
痛ましき二人は埋葬されるがよい。

アドリオ

落ち着くのだ

無謀なるものよ。分別を欠いて 110
勇猛の榮譽を汚すなかれ。

エラクリオ

賢明かつ慎重に、蛮勇に訴えるより
巧みに振舞う方が益多いものだ。
最善は常に中庸の道にある。

アドリオ

兄の分別を見習うがよい。 115

エラクリオ

嘆きが響き渡り、悲しみに打ちひしがれた
この家へ、自らを悔いたソラーヤが
帰ってくるという希望を私はまだ
捨ててはいない。

カシーロ

いまさら私達の

元へ帰ってきたとしても、間に合うものか。 120

アドリオ

遅いということは決してない。ああ、もし
あの子が戻り、父の愛に平穩を見出すなら、
どれほどの喜びで以って抱きしめることだろう。
あれを許すのに、どれほど愛情の涙を流すだろう。
エラクリオ、お前は年長だ。 125
あれの説得に万策を尽くせ。
あれが私の娘、お前の妹であることを忘れるな。
高貴なるチェルケスの女であることを思い起こさせるのだ。
罪の恐ろしさを思い知らせよ。
その罪から刻々と生じる 130
呵責の念が胸のうちに
葛藤を呼び起こすのを見て取ったなら、
名誉と義務がもたらす考えの数々を
次から次へと与えてやるのだ。

間違いなくお前は勝利を収めるだろう、135
この胸が偽るのでなければ。というのも、
我等の名誉を汚したしみを
この手で、暴君の血を以って洗ってやろうと
心を決めたにもかかわらず、
いざという時になって、寄る年波と140
凍てついた血のせいで
弱々しい厄介ものの腕は
こんな不幸の中で涙を拭うほかには
何の役にも立たぬというひどい有様だったのじゃ。

カシーロ
父上、兄上、私達はかつての私達でしょうか。145
侮辱を受けながら生きるというのでしょうか？
死ぬか、殺すか、どちらか一つなのです。
運命に傷つけられた不幸なものに
残されし名誉ある道はただ一つ。

エラクリオ
言ってみよ、その道とは？

カシーロ
それは死です。150

暴君の護衛どもを蹴散らし、
彼奴を殺してまいります。もし企てが
潰えたなら、私は死にましよう。

アドリオ
ならんぞ、カシーロ
早まるな。私の命令だ。そして私は下がるとしよう。
お前も一緒に来るのだ。このように難しい仕事には155
お前の激しい感情よりも、エラクリオの分別こそ
信頼するに足るというもの。

エラクリオ
カシーロ、お前の怒りは、
セリンの手よりまた新しい侮辱を
引き出すだろう。家中の人々や
護衛が来たようです。私達が160
こうしているところを見つかれば大変です。

アドリオ
見つかればすべてが台無しになる。
私と一緒に来るのだ、そして怒りを

鎮めるがよい。エラクリオ、お前はもし
説得が失敗に終わったと見たなら 165
知らせよ、その時私の理性は
唇から腕へと移るだろう。
ソラーヤには父がいるのだ。

カシーロ

そして兄弟もある。
名誉を忘れ去ってしまったとしても。

エラクリオ

はい、父上、ご命令の通りにいたします。 170
どうぞお下がりください。ソラーヤが
護衛に取り囲まれてやってくるようです。
あれと話をしてみましよう。出来るならば
当のセリンとも話をしてみましよう。 [去る¹]

カシーロ

よく聞くがいい。
父上がお命じになったので引き下がるが 175
もし兄上がセリンからあれの心を引き離すことが出来なければ
次に私がやってくる時は彼女を殺すためだと
この心は決まっている。
もしあれの命乞いをするならば、ソラーヤを屠る
この剣で、兄上、あなたを先に殺すだろう。 180
さらばだ、良く考えてくれ、もう立ち去ろう。
首尾よく運び、再び戻って来る事のないのを祈るよ。 [去る]

エラクリオ

ソラーヤがやってくる。恋人を得て幸せなるその表情に
奇妙な感情を読み取ることが出来るぞ。 185
この日に相応しかるべき
大きな喜びの中に
一抹の苦しい思いがあれの心を震わせる。
そこにいない父上や、
愛しい祖国の思い出が 190
悲しき色彩で呼び起こされるのだろうか？
やってきたぞ。私の存在に戸惑っている。
私を見て、震え、泣き、立ち止まる、
足をもつれさせ、カサリアがそれを支えてやる・・・
私が進むとしよう、彼女が立ち去らぬように。 195
お前の兄、エラクリオだ、話が出来るだろうか？

[ソラーヤ、カサリア、タートル人の護衛が現れる]

ソラーヤ

ああ天よ、私は一体何を目にしているのでしょうか？

エラクリオ

このエラクリオを見て立ち止まったのは
実に正しき理由があつてのこと。この顔に
父上の全き常変わらぬ似姿を、お前の家を、名誉を 200
そして忘恩の妹よ、恥ずべき暴君の褥に
愚かで無意味な気まぐれによって
お前を運んだ、その弱さが置き去りにした
すべてのものを見出したがため。
私を見て震えているのか？分かつていたぞ 205
悪徳は美德をじっと見ることさえ
出来ないということ。不幸な妹よ、
護衛がなんの役に立とう、どんなに大きな
軍勢に守られていたとしても、お前の内にある
惧れがお前を震撼させるのだとしたら？ 210
そして私はただ一人、手を挙げ、武器も持たず、
尊大なまでに落ち着き払って、お前を見ているのだとしたら？
獰猛な護衛が私の首を
胴体から切り離すのもお前の心一つだ。
裏切り者であるお前の腕にこの身を委ねるほか、 215
忘恩の妹よ、私には方法がない。
しかしお前は恐れ、私は恐れない。裏切り者よ、分かるか、
悪徳もまた美德には敬意を払わねばならぬことが。
護衛達を下がらせてくれ、お前と話をしにきたのだ。
わずかな時間しかとらせまい。 220

ソラーヤ

お前達は下がりなさい。カサリア、
あなたはあの扉に残ってセリン様が
いらしたら知らせてちょうだい。お兄様が
姿を隠せるように。

エラクリオ

最も神聖なる法を
破った暴君から身を隠せというのか。 225

ソラーヤ

そんなひどい言葉でセリン様を
侮辱なさらないで。ああ、私の愛に
相応しい立派なあの方に、そのような言葉は
似つかわしくありませんわ。あの方は暴君ではありません。

どれほどあの方のことをご存じないのでしょうか。法を破ったのは 230
あの方が人間であればこそなのです。あの方が愛するに相応しく
この胸があの方を愛したのなら、その甘き結びつきは
誉められてしかるべきですわ。それを分かとうとお考えにならないで。
天が結び合わせたのです。私はそれに従うだけ。

エラクリオ

そうして私達を捨ててゆく、お前の美德はその程度のものなのか？ 235
ソラーヤよ、父上の嘆きが聞こえないだろうか。
お前の兄弟の苦しみと悲しみの呻きが。
そしてチェルケス全体の大いなる落胆が。
私達すべてをセリンのために捨ててゆくというのか？
恋の気まぐれを愛で贖おうというのか？ 240

ソラーヤ

私の受けた教育、高貴な育ちが
この胸に刻み込んだ貞節が
失われたとはお考えにならないで。
けれどお兄様が何と仰っても無駄ですわ。
お父様、愛しい兄弟達、 245
祖国、家、血筋、習慣、
これらの力強い絆も
激しい戦いの内にあの英雄が断ってしまわれたのです。
荒れ狂う海をちっぽけな板切れで、
変わりやすい風に吹かれて渡るあの方が。 250
私を意のままに操るのは愛の神。懇願すると同時に
命令する、甘美ながらも力強いその魅力を
知らぬものがあるのでしょうか？
なぜ恋の幸福に浸る私が
欲を満たそうと努める人間と 255
同じ犠牲を払ってはいけないと仰るのでしょうか？
荒廃した戦場で自分の血と
他人の血を撒き散らす戦士のようになってはいけないのでしょうか？

エラクリオ

考えてもみよ、もし
父上とお前の弟が用意する 260
正しき、そして激しい脅しをお前が知るならば、
罪と罰からお前を遠ざけるだろう。
二人が逆上し、激しい怒りに駆られても
この私がとりなしてやろう。
カシーロの豪放はお前も知っているだろう。 265
あれは幼少より軍隊の中で厳しく育てられ、
名誉だけが糧となっている。

お前の過ち、私達の対立を知ったならば
怒り狂ったあいつは・・・

ソラーヤ

私を取り囲む

危険を並べ立てるのはおよしになって。女は、270
私のようにしっかりとした心と、
固い決意を持つ女は、
へつらいや喜びに屈するでもなければ、
そのような脅し文句にわずかでも戦き
身を引くことはありません。お引取りくださいまし、275
そしてソラーヤはその言葉に忠実であり続ける
覚悟だとお伝えになって。
いかなる働きかけもこの胸の前には無駄であると。

エラクリオ

一体なぜ、かくまで私の助言を軽んじるというのか。

ソラーヤ

この宮殿から、そしてその愚かな考えから 280
離れてくださるよう助言いたしましょう。
宮殿からというのは、セリン様に見つからぬがため。
考えからというのは、何をなさっても無駄だからですわ。

エラクリオ

どんな目に遭っても私を恨んでくれるなよ・・・

カサリア

エラクリオ様、セリン様がおいでになります。

エラクリオ

どうしたものか？

ソラーヤ

ああ、天よ。 285

お兄様が私を連れ戻しにいらしたとあの方がお考えになったら、
お兄様は激しい猜疑の犠牲となることでしょう。

エラクリオ

我が剣で・・・

ソラーヤ

おやめになって、お兄様。

エラクリオ

復讐を遂げてみせよう。

ソラーヤ

私の喜ばしい運命を知ったお兄様が、
愛する妹に別れを告げるために 290
いらしたとってごまかしましょう。
私の決心はお父様にも
弟のカシーロにも認められたことにして。

[セリン、カウリン、タタール人の護衛現る]

セリン

ソラーヤと一緒にいる命知らずな
チェルケス人を捕らえよ。美しいソラーヤよ、 295
君と話をしていた怪しい奴は
一体誰なのだ？私にとって
すべてが喜びとなるこの日に
（というのは今日この日に、我が主たる君よ、
この恋する胸が君を手に入れるからだ） 300
そのような輩は・・・

ソラーヤ

すべての不安は捨て置いて、
私をどうぞ疑わないでくださいまし。
これは私の兄エラクリオです。私の
運命を喜んで、祝いの言葉を
述べにやって来ただけなのです。

セリン

高貴な育ちの私としては 305

兄君のソラーヤに対する優しい心遣いを
疑うものでは決してない。元気づけてやって欲しい。
我が父上の宮廷でも彼女は愛されるでしょう。
そうとも、ソラーヤ、君の
父君を招いてお別れが出来るようにしてやるのは 310
当然のこと。私は手紙をしたためて来る。
貢納の件が私の望みどおり
首尾よく運んだこと、そして
こちらは協定に寄らずして、
しかし運命の心優しき采配によって 315
君の手を与えられたことを
我が父上にお伝えしなくては。そのようなわけで
私は下がるが、その間にアドリオとカシーロを呼びにやるように。 [去る]

エラクリオ

セリンは行ったか？なんということをしたのだ、恐ろしき妹よ、
もしまだ妹と呼ぶのが正しいというのなら。 320
父上が、私が、お前の弟が、
我が家と奴の手の結ばれることを認めるなどという
でっちあげを奴が信じるよりも、
その剣にかかって死んだほうがましだったぞ。

ソラーヤ

辛く厳しいこととはいえ、仕方がなかったのです。 325
これ以上悪くなることはないでしょう。

エラクリオ

お前の無鉄砲にはまごつくばかりだ。

ソラーヤ

お父様の前では
賢く振舞ってくださいまし。すなわち私の恋心を
断念させるのに成功したと。
セリン様は勘違いなさっておられるのでお兄様は 330
二人の仲を認めにいらしたと信じさせてくださいまし。
こうして私の死も、あの方のお怒りも避けられるのです。
もしお父様がその望みは破れたと知ったなら
恐ろしい復讐をなさるでしょう。
そして、もしお兄様が私の愛を阻みに来たと 335
セリン様がお知りになったなら、ああ、可愛そうなお兄様はどうなるでしょう。

エラクリオ

私に嘘をつけと、狂言を打てというのか？
なんという侮辱、それでも同じ血を分けたものか。
お前が名誉を忘れ去ったとしても、
この私は違うぞ。卑しいやり方で 340
手に入れられる幸福を蔑むことに
慣れ親しんでいる。それは高貴を汚すものだからだ。
しかし私がお前の言うとおりにしたとして、
ソラーヤ、お前はどのように自ら求めた
危険から身を守るというのか？ 345
セリンは父上達を呼びにやったぞ。
お前が方便としてついた嘘が
そうと知らぬまま伝えられ
セリンの奴が歓喜し、その幸運は
父上のお陰であるなどと考えていると聞かされても、 350
実際は父上は奴の望みに反対しているのだ。

どう解決するつもりだ？

ソラーヤ

あのような方便を
口にしよう差し向けた運命の星が
この大変な事態から救い出してください。355
天がもしも私を見放されるというのなら、誓って申します、
こんな不幸の内にあっても堅固な私の心臓は
喜んで死を見据えることでしょう。
セリン様、偉大なセリン様、愛の虜となり
私があの方をお慕いしていること以上の幸福は知らず、
私の姿が見えないこと以上の苦しみを知らぬ方。360
死が復讐を遂げようとも、私は恐れはしませんわ。

エラクリオ

そんなくだらないもののために祖国を売ってしまうのか？
愛を手にするためには、お前の
家族が不幸になってもかまわないというのか？
気がふれているのだ、ああ、考えてもみよ、365
ソラーヤ、自分が何をしているのかを、何をすべきなのかを。
お前が思案をしている間、私は
父上と弟を引き止めて、これは
お前が最も恐ろしい事態を
切り抜けるために講じた方便だと伝えておこう。370
お前の軽佻浮薄に対する罰として
復讐に燃える天がその頭を
打ち砕かんとして脅かしている。ソラーヤよ、
深慮してその危険を避けるのだ。

カサリア

お父上のもとへ使わされた伝令が375
戻ったようです。

ソラーヤ

残酷な運命よ。
お父様！その言葉、そのお名前を耳にするだけで
嵐のような苦しみを覚えるわ！お会いしても
後に残してお別れせねばならないというのに、
そのお姿をしかと見ることは出来そうにないわ。380
気が狂いそう。失礼させていただきますわ。

エラクリオ

父上には
お前がその馬鹿げた考えを捨てるまでお会いせぬがよい。

ソラーヤ

お引取りください、お兄様。カサリアはいらっしゃい。
お父様のお名前を耳にして、どれほどの
苦しみを覚えるか、言葉にも出来ません。 385
この不幸に解決はあるのでしょうか。 [去る]

エラクリオ

どこにそんなものがある？もはや後は追うまい。
天よ、人間の罪と恐怖にとって、
内なる死刑執行人や罪そのものが
罪人に与える拷問以上に 390
厳しい罰が、地獄の業火や
その復讐の如きものがあるのでしょうか。

[1](#) 明らかな誤り。立ち去るのはアドリオでなければならない。